

BESE を使った編集例

ここで扱う点字データの標準規格は、次のとおりとします。(『「サピエ図書館」登録点字文書製作基準』より)

(2)標準サイズは、1ページ18行・32マス、両面書き ただし、グラフィックデータのページは片面書きとします。

基本的な編集例として、EdelPaperで作成したグラフィックデータ(1ファイル=1ページ)をBESEで BES に変換して、点字編集システムの「文書結合」機能をつかって結合し、点字編集システムで編集していく、という編集例を示します。点字編集システムのグラフィック機能のかわりに、EdelPaper を使うイメージです。

- ・点字編集システムの設定は 18 行両面
- ・EdelPaper は 22 行
(EdelBook が 18 行設定になっていても、EdelPaper は 22 行データになります。)

☆☆ 「文書」は「点字編集システム」で、「点図」は「EdelPaper」で ☆☆

☆☆ 最終確認は、必ず点字編集システムで行ってください！！ ☆☆

☆☆Edel グラフィックデータを BES だけで登録できるようになります☆☆

(サピエへの .edl .ebk の登録は従来どおり可能です。「サピエ登録文書製作基準」を参照してください。)

この資料は、

- ・点字編集システム7 (Ver.7.03)
- ・Edel8 (Ver.8.09) (Edel の Ver.は頻繁に更新されます)
- ・BESE (Ver.1.00)

を使って編集した状況を元に作成しました。

また点字編集システム7 (Ver.7.03) の動作環境では、

(*)グラフィック(点図)の印刷は、グラフィック印刷ができる点字プリンター(New ESA721 / ESA-721 Ver95)が必要です。(テクノツールホームページ、点字編集システム7の動作環境より)

BESE でエーデルデータを BES に変換することを前提にする場合は、エーデルのホームページ「エーデルとその関連ソフト」で対応プリンターが「ESA721」となっているエーデルをお使いください。

(2016/09/20)

※BESEで「高度な設定」とされているオプションは使用しないことを前提とします。

点字編集システムでは、図があるページをすべて「図」にすることで、点字がずれないようにしていますので、現時点では、「高度な設定」を使うことはお勧めできません。

(14ページ以降参照)

※22 行両面の EdelBook を BES にするには、『高度な設定』が必要になります。

(17 ページ参照)

【語句の説明】

この資料で使っているデータに関する語句のうち

『文書データ』は

- ・BES文書データ
- ・文書または文章（点字編集システムでは「文書」、Edelでは「文章」となっています）
- ・文書としての点字

『グラフィックデータ』は

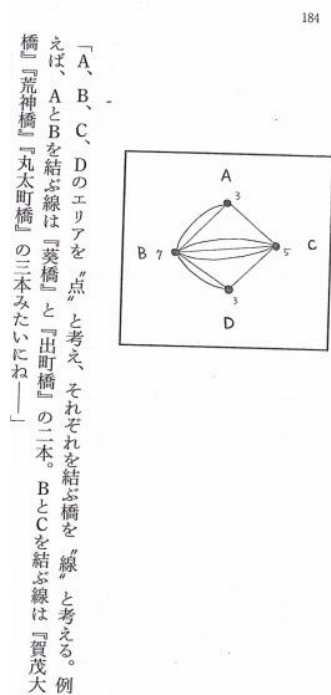
- ・点図
- ・グラフィックデータ
- ・点図としての点字


のように表現しています。

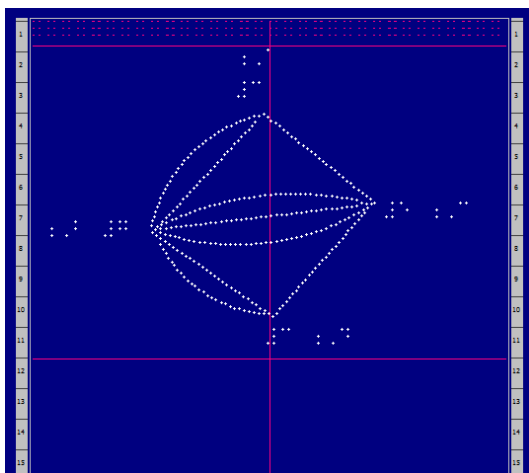
【基本的な編集例】

《Point》

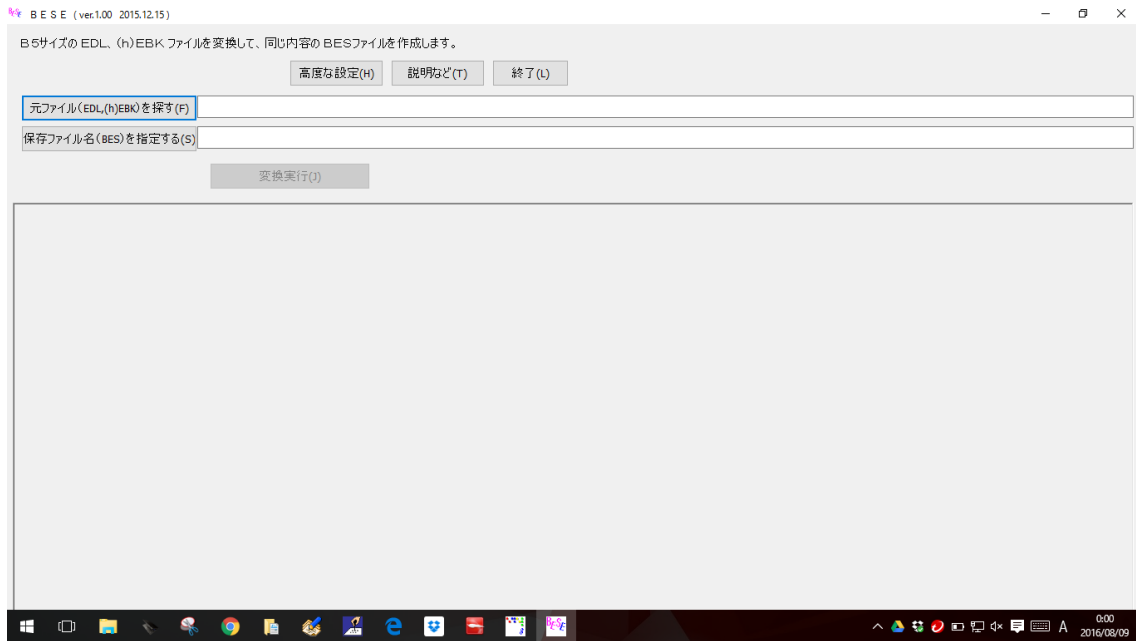
『画像』＝『音にならない』『ピンディスプレイに対応しない』なので、「音」にしたい部分は点字編集システムで入力し、「音」にしたくない部分は EdelPaper で入力する。



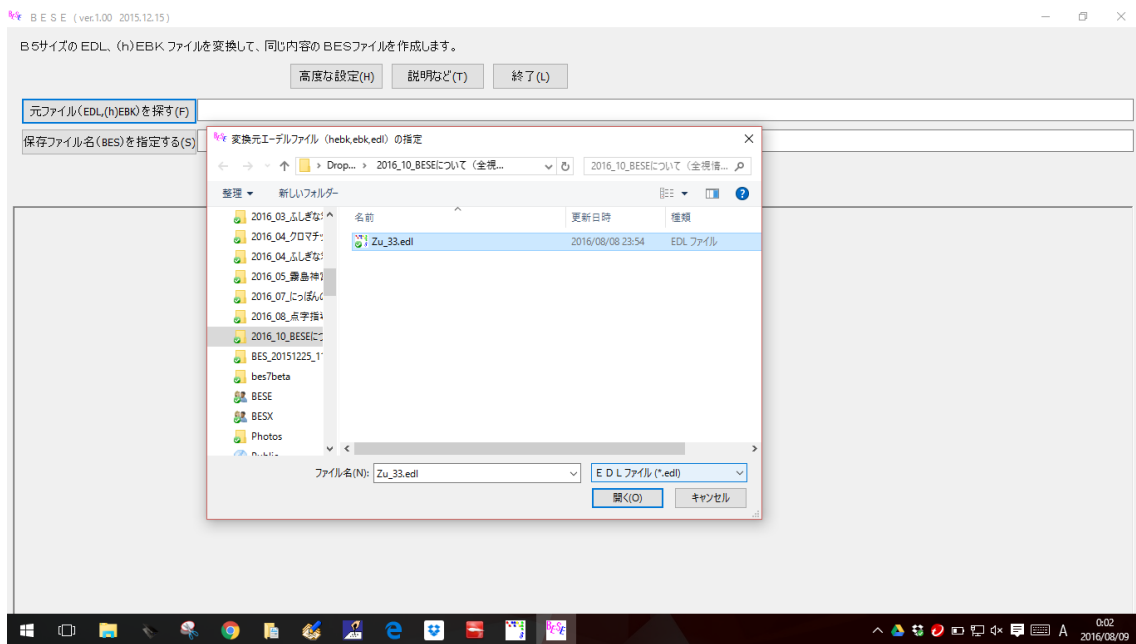
- ① EdelPaper で作成したグラフィックデータを BESE  で BES データに変換します。
 図に付随する点字は EdelPaper で編集時に記入されています。 A,B,C,D や 1, 2, 3, 4 (EdelPaper で作図した画面です)



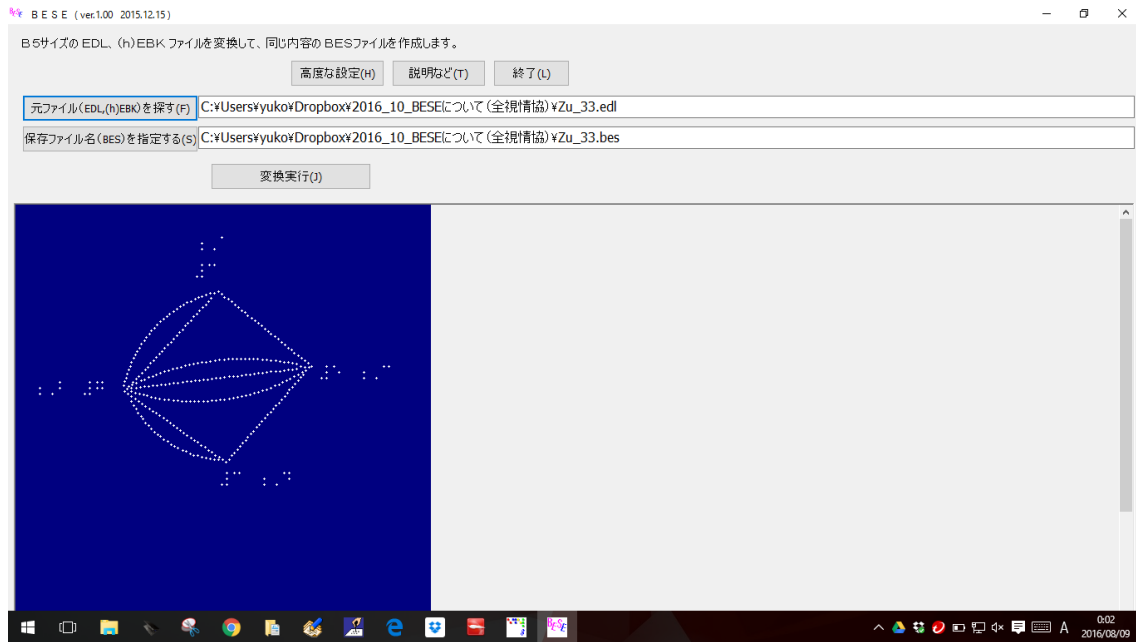
② BESE を立ち上げた画面です。



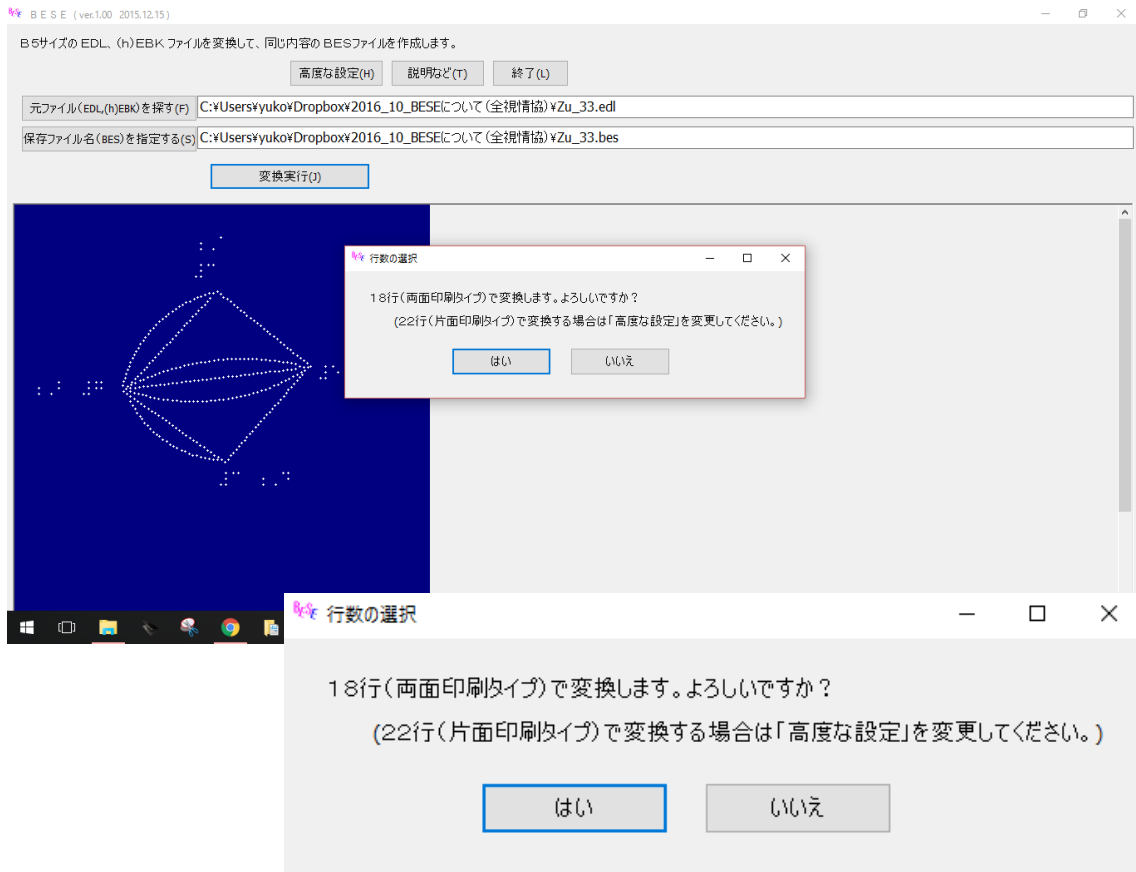
③ 元ファイルを指定します。



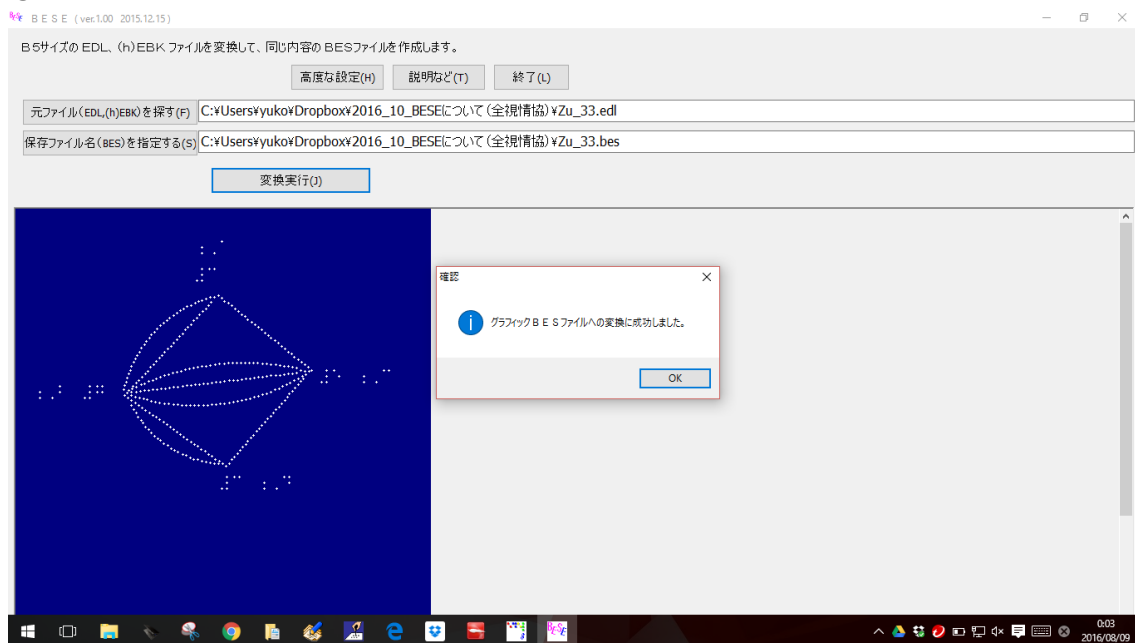
④ 元ファイルを開くと、画面上に点図が表示されます。



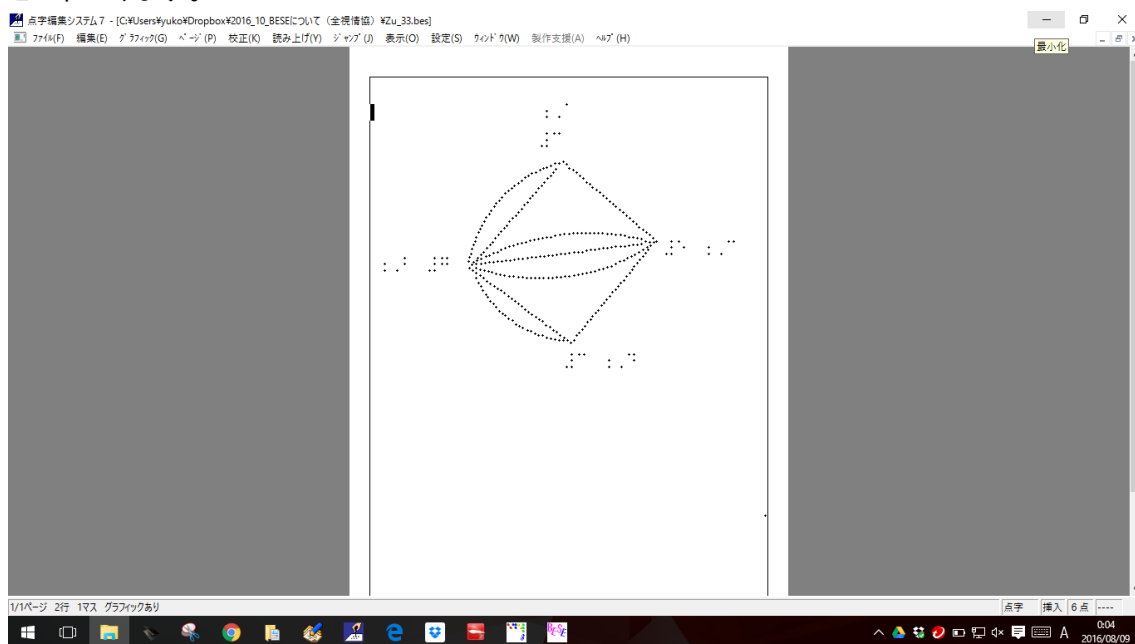
- ⑤ 「変換実行」をクリックすると、
「18行(両面印刷タイプ)で変換します。よろしいですか？」
「22行(片面印刷タイプ)で変換する場合は「高度な設定」を変更してください」
というメッセージが出ますが、「高度な設定」は変更しないでください。そのまま「はい」をクリック。



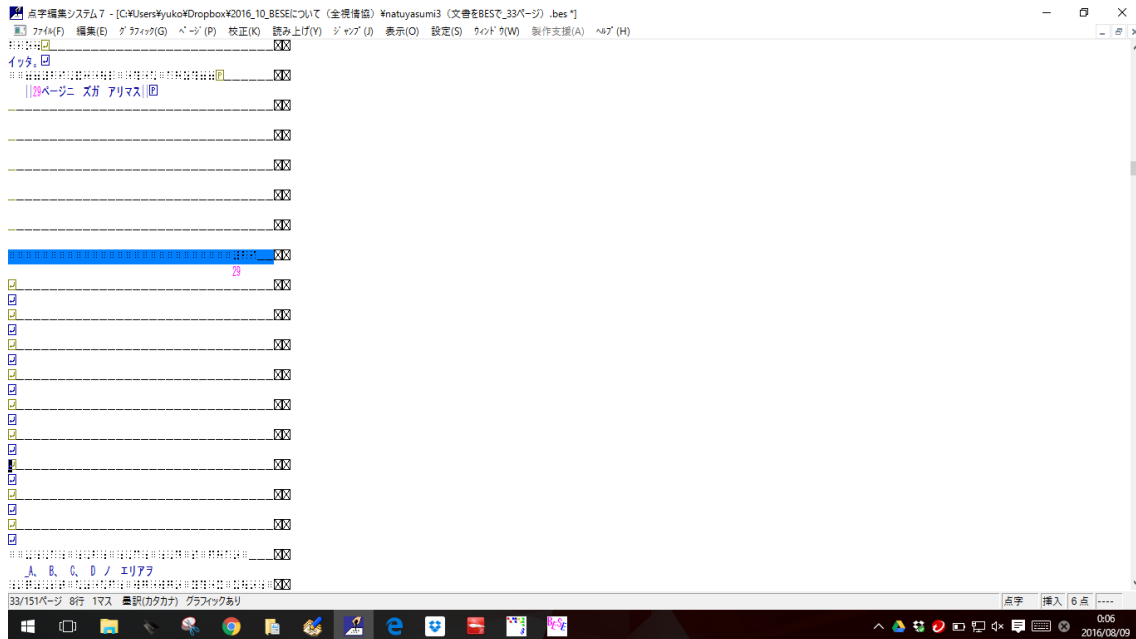
⑥BES データへの変換が完了です。



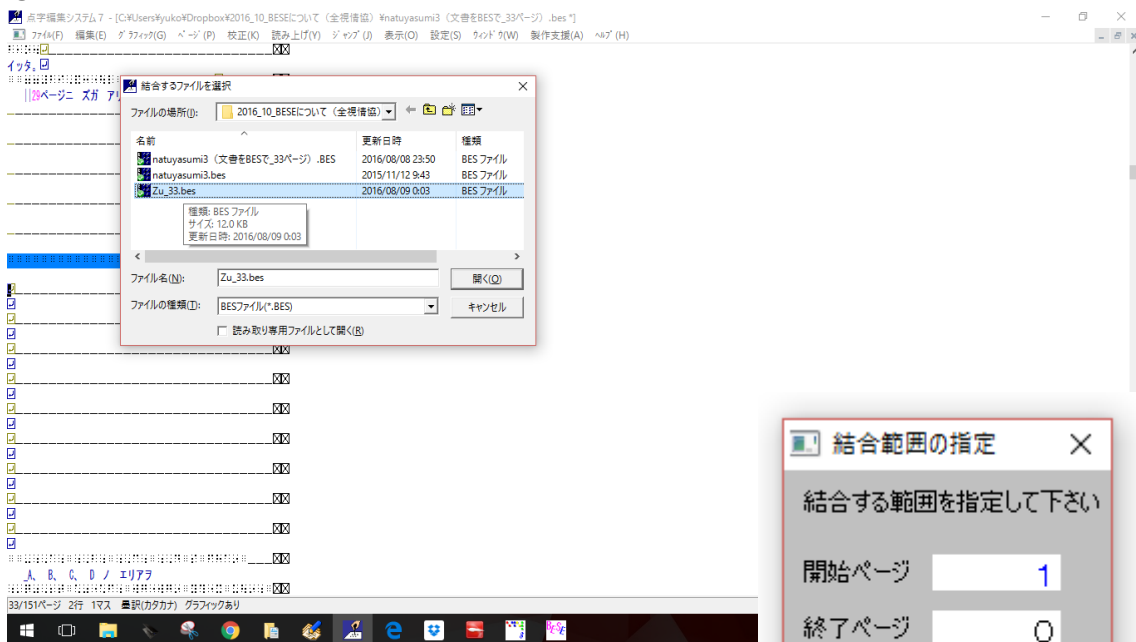
⑦点字編集システムでファイルを開き、グラフィック編集画面にすると、そのまま変換されていることがわかります。



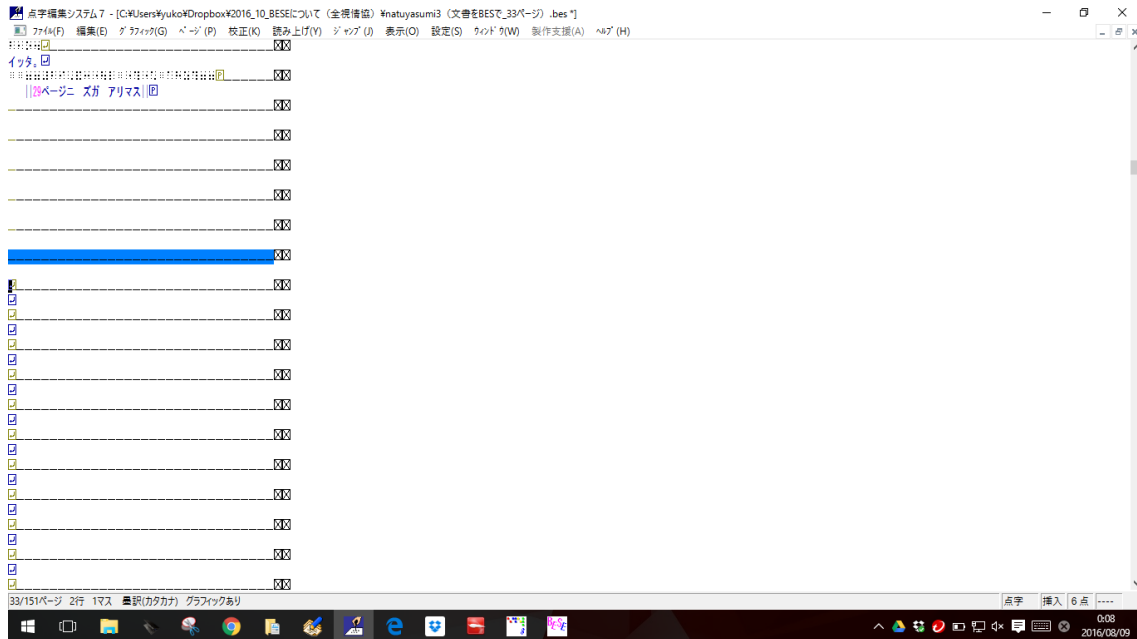
⑧変換した BES データを BES 文書データの 29 ページに文書結合させます。



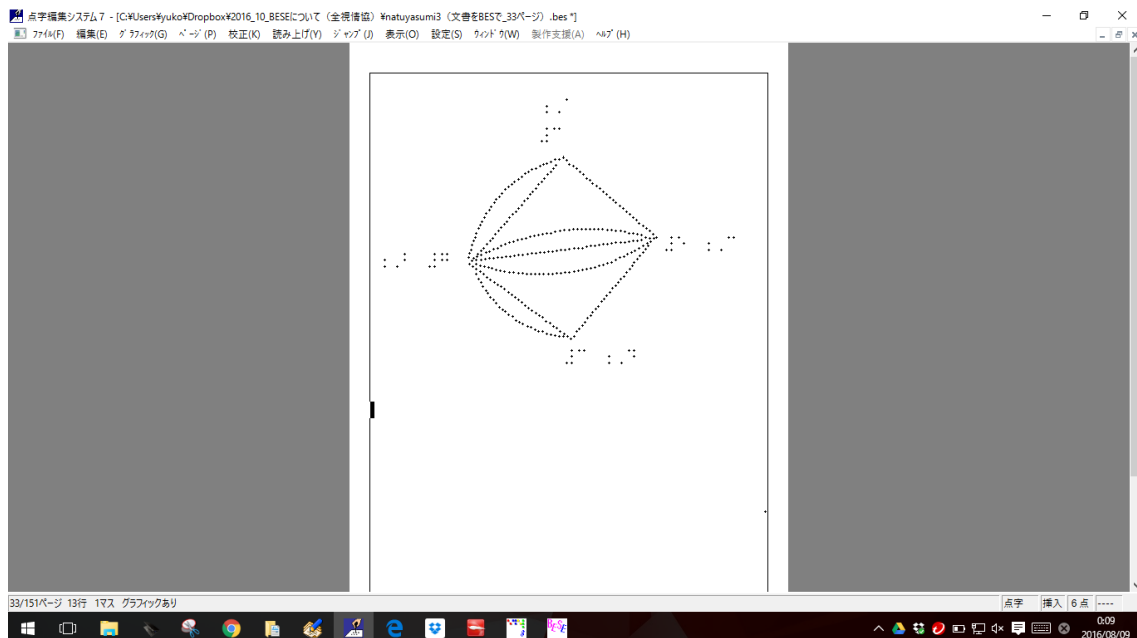
⑨点字編集システムの「文書結合」です。

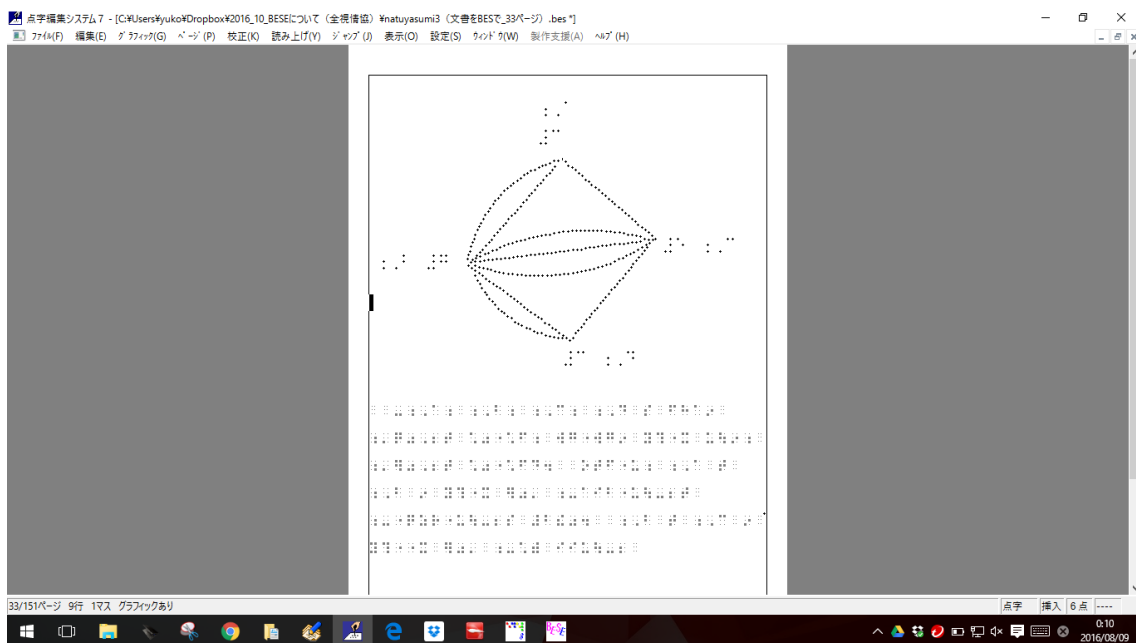


⑩結合した画面では、点図は表示されません。文書結合はページ単位なので、文書部分は次ページに送られています。(グラフィックデータを含むページのページ行は濃い青色になります。(色は変更できます))

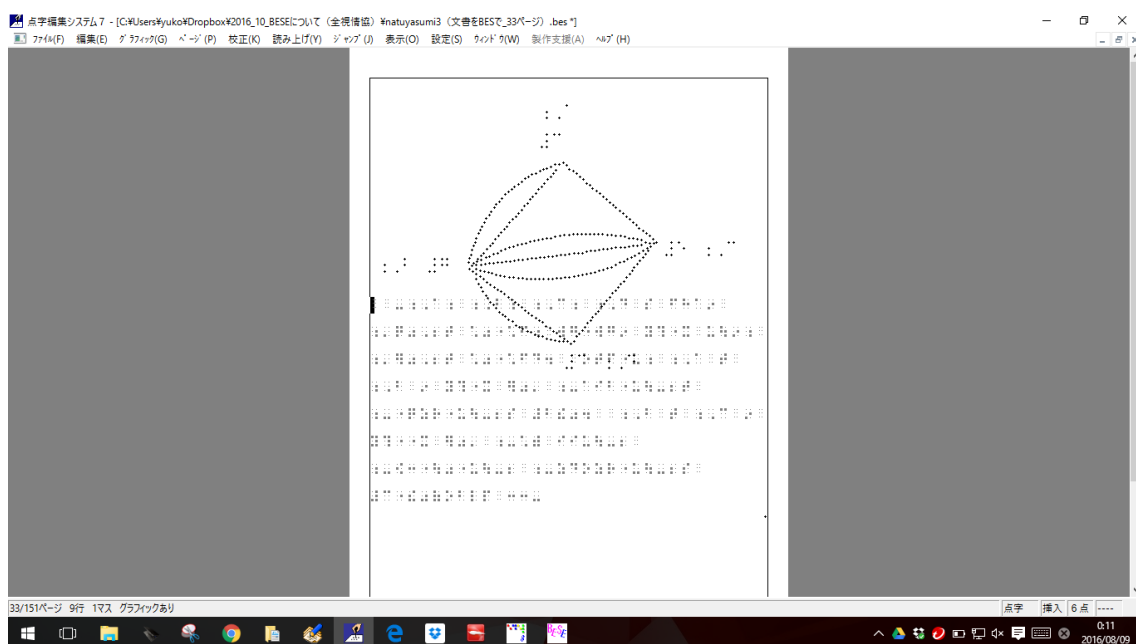


⑪グラフィック編集で点図を確認しながら、文書を上に移動させます。





文書を上げすぎたりしても大丈夫です。



点図は動かないので、文書だけを操作することができます。

文書の間違いの修正も問題ありません。

点図に文書が重なってしまっても、文書編集の要領で改行していけば、文書のみが動きます。

改行していくと、点字文書だけが動き、上の図のようになります。

⑫ 点図を修正したいときは

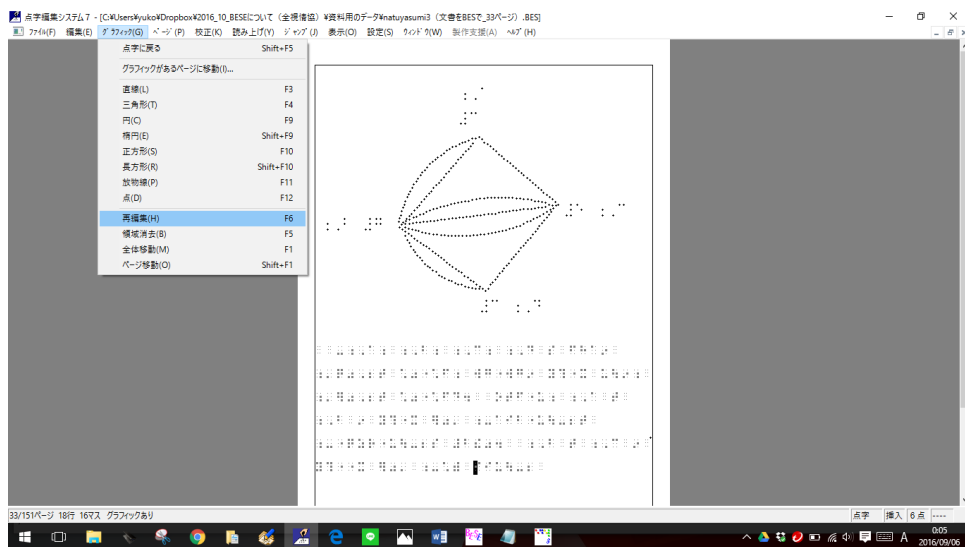
点字編集システムから一度グラフィックデータを削除します。

グラフィックメニューの「再編集」を選択します。

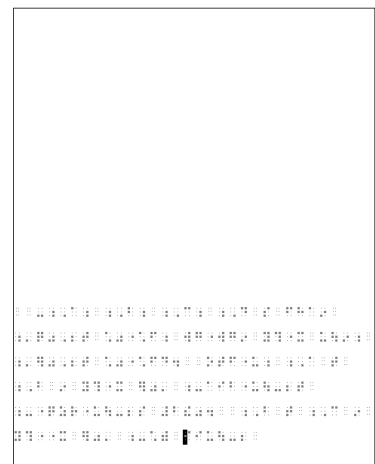
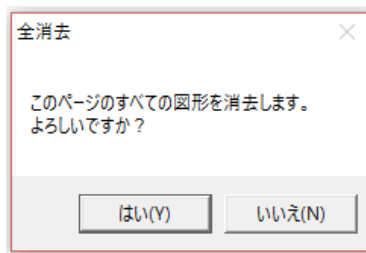
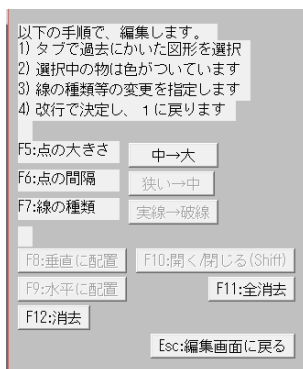
つぎに、「F11:全消去」を選択するとそのページのグラフィックデータはすべて消去されます。

EdelPaper で点図を修正し、BESE で変換し、点字編集システムで再度、文書結合します。

〔削除手順〕



↓

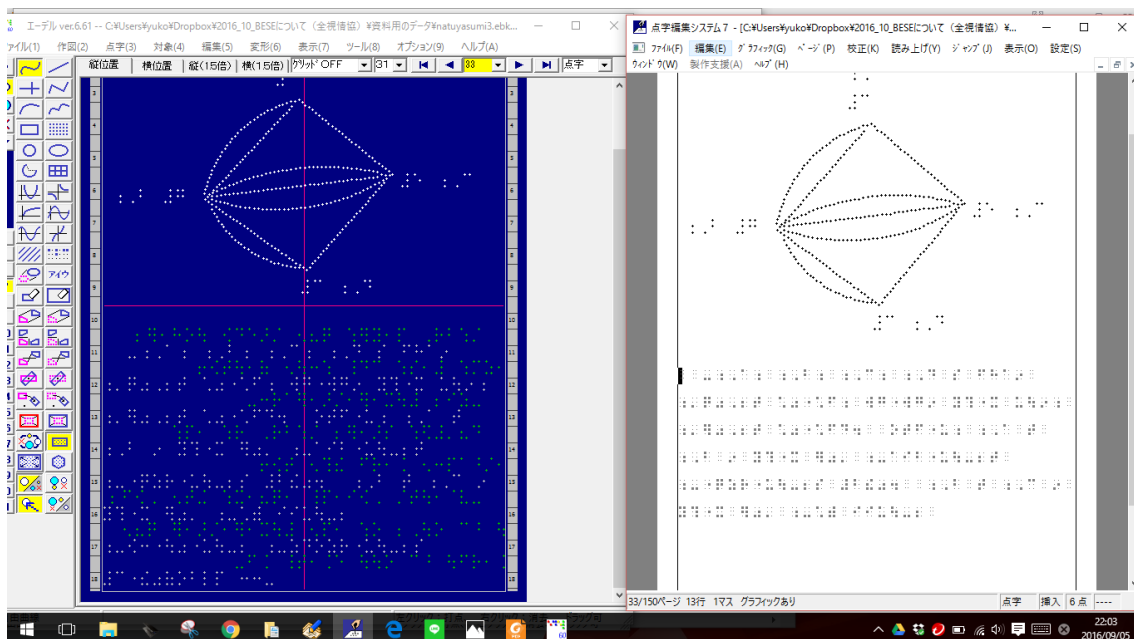


☆注意☆

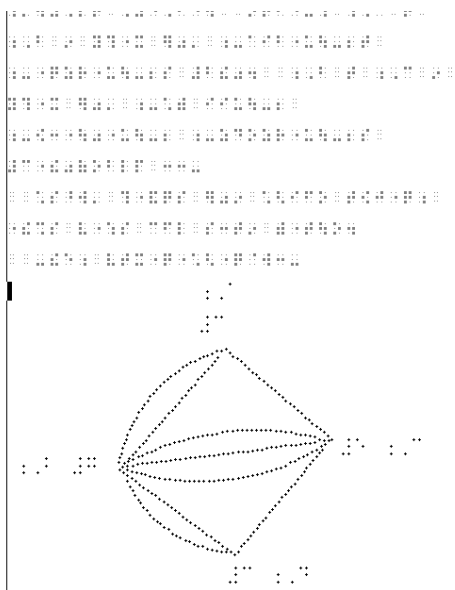
点字編集システムのグラフィックページは 22 行です。文書入力は 18 行なので、22 行データの下 4 行には文書入力できません。下図のように点図がページの上部に、その下に点字文書としてしまうと、下 4 行が空行になってしまいます。点図を下に、点字文書を上に置くことで、下 4 行部分には点図が入ります。

また、グラフィックデータのあるページの点字文書は 18 行の点字文書に比べて行間が狭くなります(18 行両面と 22 行片面)。また、点字文書の部分も両面にはできません。

点図と点字文書を同じページに配置する場合は、これらのことを考慮して編集してください。



点図を下におくと、ページの最終行まで使うことができます。



※ただし、点字文書の行間は 22 行片面です。

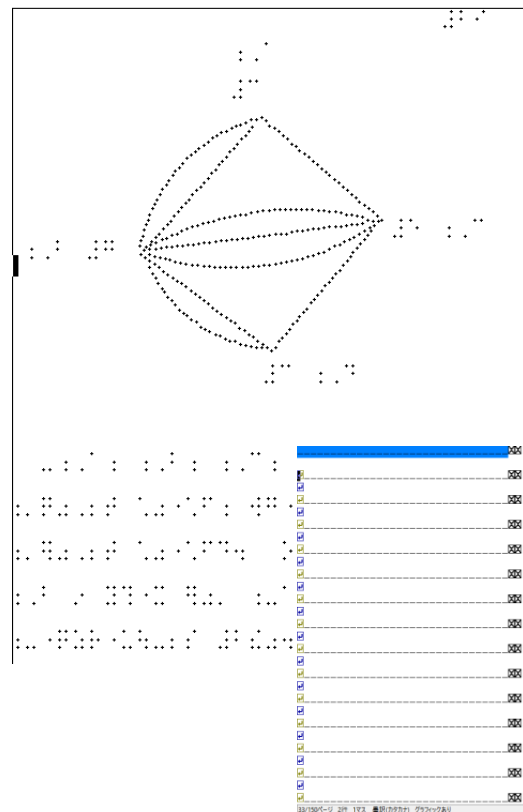
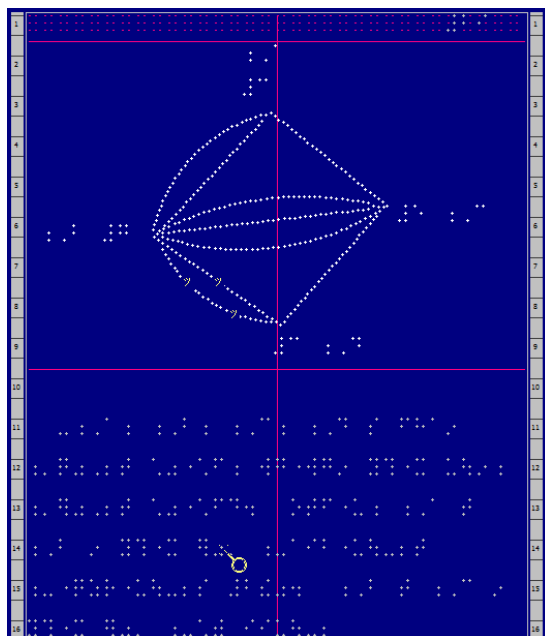
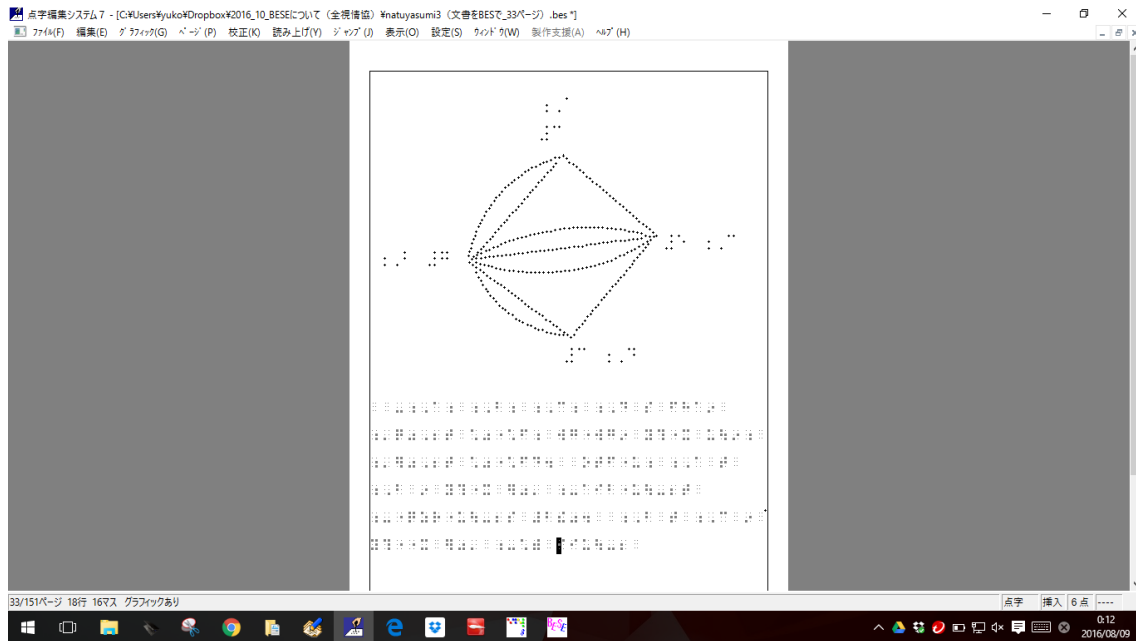
両面は使えません。

前後のページでは 18 行両面の文書データですので、触読上違和感があることも考えられます。

これは点字編集システムのグラフィック機能を使った場合と同じです。

EdelPaper/EdelBook でグラフィックを含むページは BESE で BES データに変換すると点字文書もすべて画像として取り込まれます。

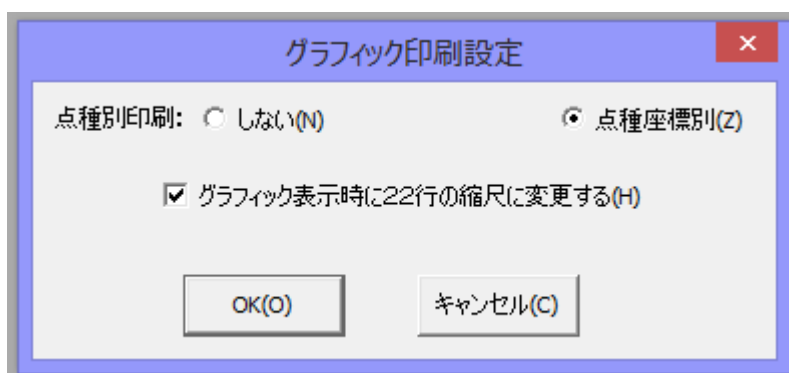
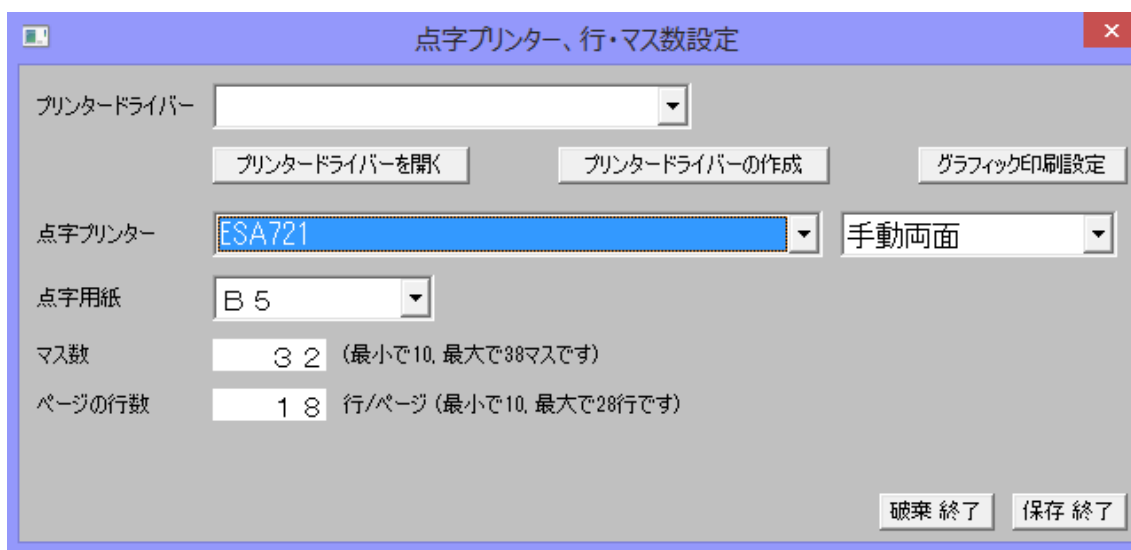
(EdelPaper で点字文書まで作成して BES に変換し、点字編集システムで文書結合した画面です。点字文書部分もすべて画像になっているので、点字編集画面は空白になります。)



【印字の際の注意点】

EDEL と同じように小点→中点→大点の順で印字できるように、点字編集システムの点字印刷の設定を以下のようにします。

点字プリンタ、行・マス設定 → グラフィック印刷設定 で
「点種座標別」にチェック
「グラフィック表示時に 22 行縮尺に変更する」にチェック

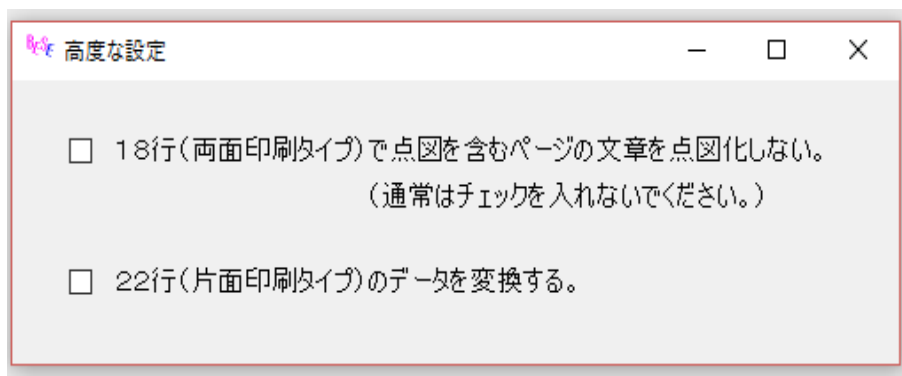


【高度な設定とは？】

BESE の高度な設定とは、以下の2項目です。

※18 行(両面印刷タイプ)で点図を含むページの文章を点図化しない。(通常はチェックを入れないでください)

※22 行(片面印刷タイプ)のデータを変換する。

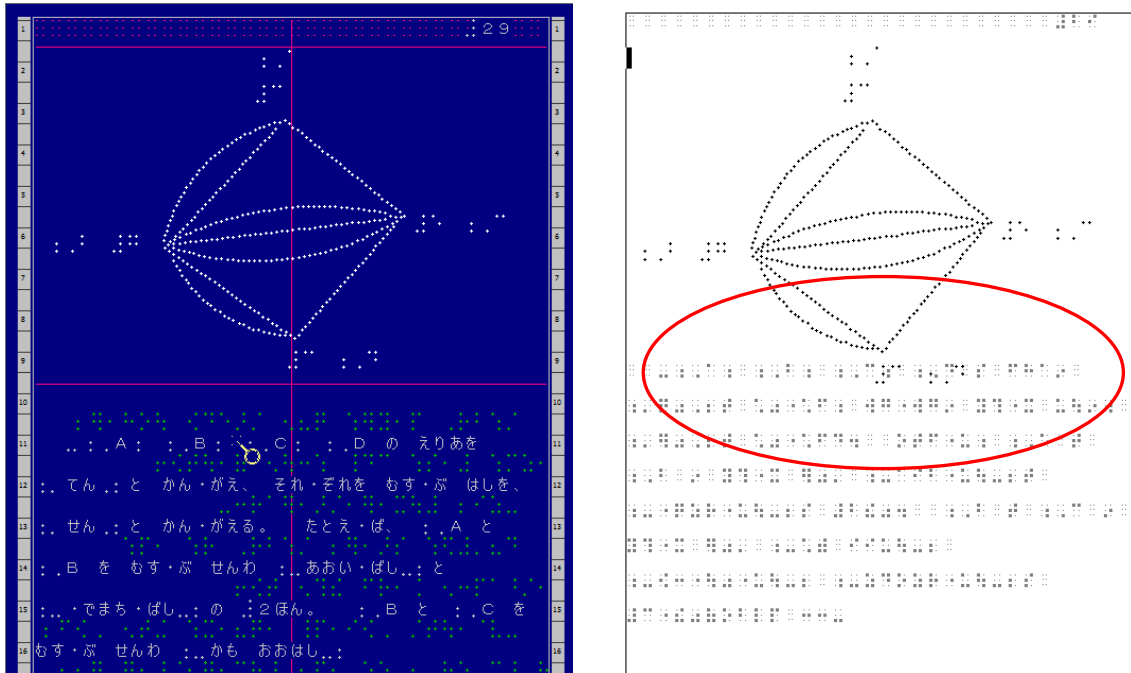


1. 『18 行(両面印刷タイプ)で点図を含むページの文章を点図化しない。(通常はチェックを入れないでください)』(以下、『点図化しない』)にチェックをいれると

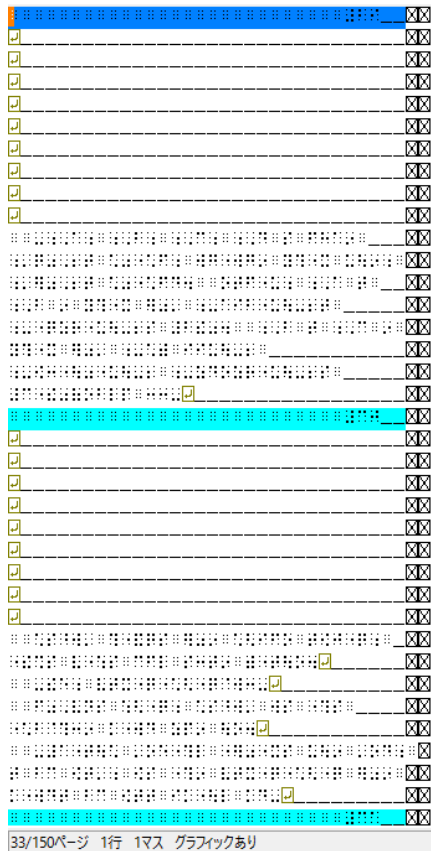
BESE の通常の変換は、点図を含むページをすべてグラフィックデータとして変換します。そうすることで、点字がずれることを防いでいます。EdelPaper では点字は「点図としての点字」として入力されますので、最初から点図になっていますが、EdelBook で入力した点字文書や BES 等から取り込んだ点字文書も、そのページに点図があれば、BESE で通常変換するとすべてグラフィックデータになります。

『高度な設定』の『点図化しない』にチェックをいれると EdelBook で BES・BASE などの文書ファイルから取り込んだ「点字」、および EdelBook の文書ファイルの点字は点字編集システムで「点字データ」と認識されます。(いずれも 18 行)

『点図化しない』にチェックを入れて、変換した画面です。



図形の下の部分と点字文章が重なっています。

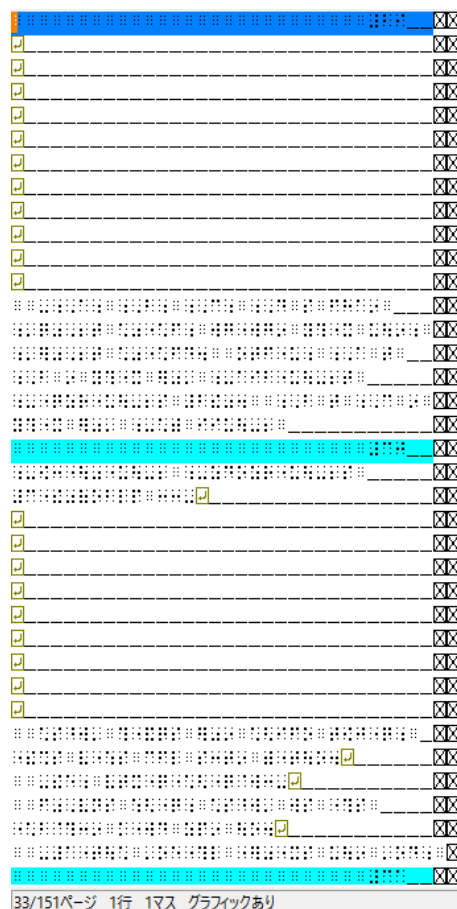
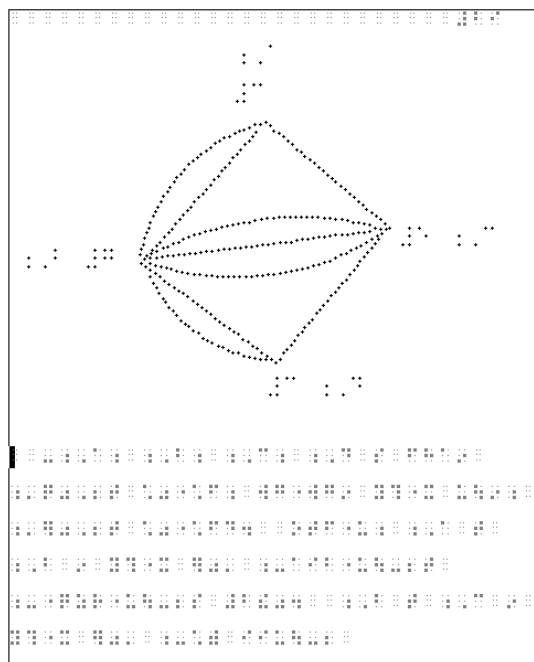


このグラフィック編集画面を点字編集画面にすると、ページの上の方にグラフィックを置き、ページの下半分は両面の点字データを入力するように配置されているのがわかります。
(ページ行が濃い青色になっているページはグラフィックデータが含まれていることを示しています)

『点図化しない』と変換したので、EdelBook の文書ファイルの点字は「点字」のまま変換されましたが、変換時に、グラフィックと点字が重なってしまいました。BES データはグラフィックデータのあるページは22行になるためです。点字編集システムで点字部分を下に下げることが可能ですが、両面を使うことはできません。

※「文書ファイルの点字」とは、BES などの点訳ソフトで作成し EdelBook に取り込んだ点字、および EdelBook で文章編集画面から直接点字入力した文章ファイルの点字のことです。

点字を2行下に下げました。ここまで点字を下げると、点図と重なることはありません。



しかし、点字編集画面にしてみると、きちんとグラフィックに重ならないように編集した点字データが次のページにずれているのがわかります。点字編集システムでは、グラフィックデータの裏面は使えないので、全体のレイアウトを修正していかなければなりません。

《『点図化しない』変換のまとめ》

以下のデータは「点図」へは変換されません。

- ・EdelBook で BES・BASE などの文書ファイルから取り込んだ「点字」(18 行)
- ・EdelBook で「点字入力」した「点字」(18 行)

※変換時に、点図と点字が重なるなど、位置がずれてしまいます。

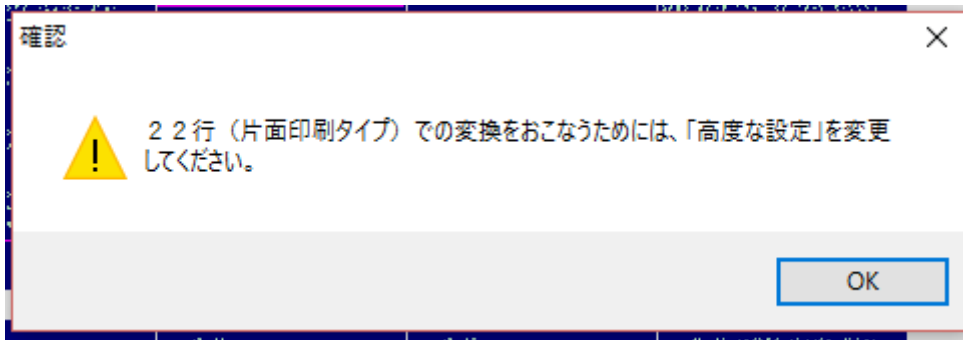
そのため、せっかく整えた EdelBook のデータがずれてしまうことになります。EdelBook で最終編集するのではなく、EdelPaper で作成した1枚1枚のグラフィックデータを文書結合させながら、点字編集システムで編集していく方が効率的です。

※『点図化しない』のチェックを外して、通常の変換を行った場合、「点図」を含むページにあるデータはすべて「点図」に変換されます。位置はずれません。

2. 『22 行(片面印刷タイプ)のデータを変換する』(以下『22 行変換』)にチェックを入れるケース

22 行の EdelBook は『22 行で変換する』にチェックを入れてください。

18 行変換のまま、22 行の EdelBook を変換しようとする、以下のようなメッセージが出ます。



『確認: 22 行(片面印刷タイプ)での変換をおこなうためには、「高度な設定」を変更してください』

「OK」を選択すると、変換されずに元の画面に戻ります。

『22 行変換』の場合は、文章ファイルの点字は点字として変換されますが、EdelPaper で入力された点字は「点図」として変換されます。

※22 行のデータの場合、「点字」として出力させるには、文章ファイルとして点字入力する、または他の文章ファイルを取り込む必要があります。

【EdelBook の点字文書を BASE または EdelPaper で作成した場合】

BESE で変換された BES データについて、点字編集システムの禁止帯(行末の ☒☒)に入るべきスペースが入っていない場合があることを確認しています。

EdelBook を BESE で変換して BES にした場合は、必ず、点字編集システムで確認してください。

